

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4170100422		
法人名	株式会社 都紀		
事業所名	西与賀紀水苑		
所在地	佐賀市西与賀町高太郎183-1		
自己評価作成日	令和3年12月15日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和4年1月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人内で結成している業務手順委員会主催・オンラインでのZoom研修の参加しサービスの質の向上を図っている。同法人の3事業所での催し物や親睦会などを開催し入居者様・スタッフの交流の場を提供している。弊社のホームページにて活動内容を掲載し遠方に住まわれているご家族様や施設を探されている方へのアピールや情報提供を行っている。緊急時のショートステイの受け入れも行っている。コロナ禍で、以前に比べ外出頻度は激減しているが、お天気が良い日は近所をお散歩したり、苑庭で野菜の収穫を行ったり、また月1回はバスバイクで外出し季節感を味わっていただいている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは、周囲をのどかな田園に囲まれ、県道から出入りしやすい場所に建てられている。近隣や佐賀市内からの入居者が多く、開設当時から入居者もいる。近年のコロナ禍でも、毎月の車での外出や、日光浴、散歩など利用者の生活の質を保つための努力と工夫を重ねている。同法人で市内に数か所事業所があり、各事業所が連携を図ることで、コロナ禍でも研修を受けたり、相談できる機会を保っている。職員のほとんどが福祉の専門職の資格を有し、安定的に運営されているホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年理念の確認を見直しを行い4月のオリエンテーションでスタッフに配し共有・確認している 入居者様本位に安心して生活が送れるように支援することを目指した理念実践につなげている	理念は開所当時から継続し、事業所内のいたるところに掲示している。毎年理念に基づき重点目標を定め、目標を実践するための具体的な項目を策定している。職員は、ケア会議等で振り返りを行い、理念の実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や法人全体・事業所で行う行事に参加して頂いていたが、コロナ禍のため以前のようにできていない	コロナ禍で、以前のような地域との関りは少なくなっているが、自治会長を通して自治会と連携することにより、事業所の環境整備が進んだ経緯があり、できる範囲で地域との交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加された地域の方に認知症についてや苑の支援方針などの説明を行っている また、外部より要請があれば地域住民の方々への説明や施設見学も応じている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・自治会長・おたっしや本舗・地域の消防団・家族の方に参加して頂き苑の行事報告や予定など情報開示をしている コロナ禍にて開催ができない場合も報告書として郵送している 来苑の際には要望・助言などを基にサービスの質の向上に努めている	会議は関係者の参加を得て、家族会も含めて定期的実施している。会議の実施については、感染症の関係で書面で行うこともあるが、会議後は家族や関係機関への報告を行い、記録は整備している。アンケート等を活用して、出された意見は検討しサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為に運営推進会議での情報交換が難しい状況であるが、毎月苑だよりや報告書を郵送している おたっしや本舗主催のネットワーク会議などに参加し協力関係を築けるように取り組んでいる	行政機関とは、法改定について尋ねたり、マニュアル作成等で相談したり、ネットワーク会議等を通して連携をとっている。各関係機関へホーム便り等を出すことで、事業所の取り組みを伝え協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	Zoom研修や法人でも3ヶ月に1回身体的拘束適正化検討委員会を開催しスタッフ全員でケアを振り返り身体拘束に繋がる恐れがないか検討している 原則身体拘束を行わない方針である	身体拘束は基本的に行っていない。定期的に身体拘束適正化委員会を実施し、ケア会議にて検討するシステムを構築している。研修は、オンラインを積極的に活用し実施している。チームワークで身体拘束を行わないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	Zoom研修や苑での勉強会に参加し毎日振り返り見直しを行っている 日々のケアの中で気になる事はお互いに指摘し防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自施設勉強会で権利擁護や成年後見制度について学べる機会を持ち知識を高めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に入居者様・家族様の要望・ご意見を伺い意向に添ったサービスができるように話し合い、理解を承を得ている また、契約内容の改定の際も説明を行った上で同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口やご意見箱を玄関に設置 年に1回アンケートを実施しご家族様や入居者様からのご意見・ご要望は家族会で報告し運営やケアに反映させている	入居者には担当職員が個別に意見を聞き取り、家族には、面会時等に話を聞くようにしている。また、年1回入居者、家族にアンケートを実施し、その結果は、家族会で報告し、スタッフに周知することで、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や勤務中に出た意見や提案は上司に申し入れ検討したり、スタッフが上司と話せる親睦会や食事会を行える機会を設けている	管理者と職員は機会を設けて交流を深め、要望や意見を言いやすい雰囲気を作っている。毎年の自己評価で個別面談を行い、出された意見は運営やケアに反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年自己評価を行い個人面談を行っている 個々の努力・実績・勤務状況などを把握しモチベーション高く勤務して頂けるような配慮をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議等での発言や勤務状態などスタッフ一人一人のケアの現状と力量の把握に努めている 資格取得に向けた研修会への参加を勧めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為交流会ができなくなっているが、管理者会議などで出たケア等の話を共有しサービスの質を向上させていく取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会をし、家族様・CMから情報を得ることで少しでも安心して入居していただけるようにしている 不安な事や要望などを傾聴し表情や行動などから気持ちを汲み取り安心してもらうような関係づくりにつとめている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様より入居前の状態や心身状態を聞き取り問題になっている事を明確にした上で可能な限り要望を実現できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会の際、現在困っている事や入居者様が何が必要であるか課題をみつけ、サービス利用を含めた対応がおこなえるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴や様子・言動から入居者様の役割を考え、ケアに取り入れた上え暮らしを共にするもの同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や状態変化時には家族様への報告を行い、行事などに参加して頂き一緒に過ごせる機会を設けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回のバスハイクやドライブでは入居者様の自宅周辺や馴染みの場所にお連れしている。コロナ禍で難しい状況であるが、地域の行事へ積極的に参加し交流が途切れないようにしていた	外出の際には、入居者の自宅や馴染みの場所等を通るように配慮したり、地域の行事に参加することで関係が途切れのような支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席など入居者様の意向・相性などを配慮している スタッフが入居者様の間に入りより良い関係が得られるように支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了されてからも相談などあれば可能な限り対応し 経過のフォローや情報提供をおこなっている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月 担当のスタッフが個別に要望を伺い実践につなげる取り組みをおこなっている 意思疎通が難しい入居者様に関しては表情やしぐさから想いを汲み取ったり家族からの情報から入居者様の想いに寄り添ったケアになるよう検討している	アンケートを実施したり、ケアの際や個別の時間を設けて意向を聞き取るようにしている。意志の疎通が難しい場合は、家族から聞き取ったり、その方の状況や表情から読み取り、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や基本情報をスタッフ全員が把握できるよう指導している 新しい情報についても送りノートで共有できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活状況を観察し、残存機能が最大限に発揮できるようプランに反映させている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	CMが毎月モニタリングを行いケア会議などで検討している 入居者様・家族様の要望・意見を聞き取りプランに反映させている	計画は、本人、家族の意見を聞きながらケア会議にて検討し、現状に即した計画を作成している。記録は整備され、家族への説明については、面会時等に話し合いをしながら行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯・夜勤帯の記録の色分けをし、その日の状態・支援経過は個別に分かるように記録している ケア会議時に個別支援を検討しスタッフ間で共有し介護計画に活かせるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のニーズの柔軟に対応できるように、毎月思い・願いを個別に聞き出し実践につなげる支援をしている コロナ禍の為、買い物支援が難しくなっているが、近所の甘味処まで散歩し好きなお菓子を購入したりと出来ることに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の行事へは参加できていないが、近所を散歩したり、豊かな暮らしができるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力病院の説明を行い、主治医変更などは入居者様・家族様の希望を重視している 協力病院とは24時間いつでも連絡でき適切な指示や往診を受けることができるように努めている	本人、家族等の希望を聞きながら、かかりつけ医を決めている。現在は、入居者全員が協力医療機関を受診しており、24時間体制で対応してもらっている。他科受診については、家族に対応してもらうこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間いつでも看護師と連絡がとれるオンコール体制をとっている また、週1回看護師が勤務し入居者様の状態把握や相談を行い・指示・助言を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の指示に従い、入居者様の体調や経過を見極め退院に向けた話し合いを含め行っている 協力病院との連携を図り関係作りをおこなっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについて説明を行い意向確認をおこなっている 状態が変化した時は主治医や家族と方針を共有し、入居者様や家族様の思いを尊重した看取りケアに移行しチームで支援にとりくんでいる	看取りの事例があり、入居者については、順次、関係者で、将来の医療及びケアについて話し合いを行い、意思決定のプロセスについて確認している。職員については、心構え等について、話し合いを行い、チームで支援に取り組める体制を作っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを基にスタッフが対応できるようにしている また、救命救急講習を受けており入居者様の急変時に備えて実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定での消防訓練を年2回実施している 消防署・地域の消防団の立ち合いのもと、避難方法や避難場所の確認もできている 緊急連絡網を作成し・防災対策もスタッフ間で周知している	地域の消防署や消防団の協力を得て、昼夜想定での火災避難訓練を年2回実施している。緊急の場合のマニュアルや連絡網を整備し、日々の暮らしの中でも、コンセントの掃除や電動ベットの点検等計画を立てて実行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の気持ちに寄り添った接し方・言葉かけを心がけている 毎年プライバシーに関する勉強会を実施している	入浴時や排せつ声掛け等入居者のプライバシーを尊重してケアを実践している。ケア会議の中で担当者を決め、プライバシー等の勉強会を行うことで職員の質の向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎月入居者様1人1人の思いや願いを聞き出し、希望を実践するよう努めている 日頃のケアの中で信頼関係を築くことで何でも自由に話していただけるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話・関わりを大切にし、1人1人の体調や希望・意思等配慮しながら その人らしく生活が出来るように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日同じ服にならないように気を付けている 散髪の際は本人の希望を聞き、好みの髪型になるように楽しんでいただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど入居者様と一緒にいき、食事が楽しみなものになるように支援している	入居者の希望を聞きながら献立を考えている。また、入居者の力を活かして食事の準備や片づけを行ってもらっている。外出の際には、弁当のメニュー表から好みの物を選択してもらおう機会を設け、食事が楽しみとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嚥下状況に応じた食事形態を考慮し提供している 水分量・食事量のチェックを行い 摂取量の確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、できるところまでは自分で磨いてもらい、必要時応じて仕上げ磨き介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に排泄リズムを把握し案内に努めている 自立支援の為に出来ることはおこなってもらい 体を動かし排泄を促し支援している	排せつチェック表から一人ひとりのパターンを把握し、日中は全員トイレに誘導することで排せつの自立に向けて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のテレビ体操や歩行練習などの運動に取り組んでいる 水分確保のため言葉かけを行い1ℓ/日以上確保につとめている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回以上が基本であるが、その日の体調に合わせて入浴していただいている できる限り入居者様の意向に添いながら気持ちよく入浴できる環境になるよう努めている	基本的には週3回以上の入浴の機会を設けているが、入浴が苦手な方には、タイミングを見て声をかけたり、清拭等で対応することで柔軟な対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動と休息のバランスを図り、夜間良眠につながるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月のケア会議や申し送りノートを確認し薬の変更等の把握に努めている 内服変更があれば、その後の症状の変化など留意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来ること、得意とする事 好きなことなどを生活歴や会話から聞き出している 無理のない範囲で楽しく取り組んでもらえるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回のバスハイクや季節ごとのイベントなど入居者様の希望を汲み取りながら計画をし実践している コロナ禍の為に外出支援が難しい状況ではあるが、個別でのドライブや散歩などの機会を設けている	年間計画に基づいて、月の外出予定を決めて実行している。コロナ禍でも、人の少ない場所を選んで外出したり、近所を散歩したりと外出の機会を確保するための工夫がなされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意を得て苑が管理している方もいらっしゃる 本人の希望があれば必要に応じて家族の同意を得て購入の支援をおこなっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の希望があれば電話を取り次いでいる お手紙などがついた際は本人様に手渡し、内容が分からない方にはスタッフが読んで説明している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには加湿器を2台設置し湿度調整をしている イベントで撮影した写真や 入居者様と作成した貼り絵などを掲示し居心地のよい空間づくりを行っている	共有の空間は、南向きで温かい日差しが降りそそぎ、感染対策も十分に行っている。壁には、入居者と職員の共同作業の貼り絵や、外出の際の写真が飾られ、温かな雰囲気を作り出している。職員は、音を立てたり、慌てたり、走ったりしないように注意し、穏やかな環境を作るよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居様が話やすいようにソファを用意し、お天気が良い日は畳椅子に座って日光浴を楽しんでもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	イベントで撮影した写真や、入居前の写真、昔の家族写真などを壁に掲示している 自宅で使用されていた家具などを持ってきていただいたり馴染みの居室空間となるように工夫している	本人、家族の希望に沿い、馴染みの家具等を持ち込むことが出来る。居室のベッドの向きを希望に沿って変えたり、壁には馴染みの写真等が飾る等、居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の動線・目線に合わせて、トイレや居室などの文字などを表示し一人できるように取り組んでいる お知らせやカレンダーなどを活用し自立した生活が送れるようにしている		